

付帯調査（自由意見）

（令和8年3月調査）

景況調査票の自由意見欄に246企業から貴重なご意見をいただきました。
ご多用中にもかかわらずご記入をいただき感謝申し上げます。

図表1 最近の状況や関心事

分類項目	回答数※
1. 経済・景気動向	131
2. 業界の動向	77
3. 顧客・得意先	66
4. 為替	47
5. 金融・資金繰り	28
6. 売上・収益	84
7. 物価変動	61
8. 消費税等	32
9. 人材の確保・育成	45
10. その他	19

※複数回答

特徴的なご意見を掲載いたします。なお、掲載にあたり若干の加筆・修正を加えています。

1. 経済・景気動向について

- 地域とのつながりを大切にしており、4月からは子ども食堂にも店を貸す予定。厳しい中にも、営業していることへの希望を持ちたいと思う。（一般飲食店）
- 中東情勢を踏まえ、原油関連・工具などの値上がりを危惧している。幸いまだ需要の底堅さが感じられるが、今後は需要の先読みと価格転嫁が課題になると考えている。（金属素形材製品製造業）

- コストが想定以上に増加しており、企業努力だけで吸収できるレベルではない。イランやウクライナのため、先行きも更に不透明になり、非常に厳しいと感じる。（金属加工機械製造業）
- CO₂削減に向けた取組に関する事案が目立ってきた。特に、水素及びアンモニア関連の搬送用設備に関する注文が多く、来期は期待できそう。（ゴム・プラスチック卸売業）
- 中東情勢の悪化は原油価格のみならず、世界経済全体を揺るがしかねない。資材、原油、人件費の三重苦により、レンタル業界は大きな影響を受けると危惧している。（事務用機器他賃貸業）
- 中東情勢による株価と市況の悪化が不安。現在順調な米国市場の需要だけでなく、国内のインバウンド・高級品需要が冷え切ってしまうのではないかと心配。また当然ながら原材料高騰、材料不足のリスクもある。（窯業・土石製品製造業）
- プラスチック製品を作っているため、原油価格の動向が気になる。アメリカとイランの戦争が早期に収束して欲しい。（工業用プラスチック製造業）

2. 業界の動向について

- 仏具業界は販売不振が深刻だが、原因は複合的。コロナ禍以降葬儀が家族葬主体となったことや、物価上昇により仏具が敬遠されていること等がある。（装身具・装飾品製造業）
- 銅、ニッケル等の高騰が止まらず、利益が減少する可能性が今後の心配。（ボルト・ナット・ねじ卸売業）
- 景気悪化・キャッシュレスに伴い、商品の需要が減少している。一方、原材料の高騰は都度あり、商品の値上げ要請をしているがなかなか受け入れられず、逼迫している。得意先の人員削減のためか雑務が増えており、人手不足にもなっている。（かばん・袋物卸売業）
- 書店の利益が出ない状況が改善されない。トラック新法（改正貨物自動車運送事業法）によるコスト増加も控えており、このままでは書店は非常に厳しい。（書籍・雑誌小売業）
- 建築費が増加しているため、予算オーバーの物件が多数ある。（建築設計業）
- 中東情勢によるドライ溶剤・石油製品の値上がりを危惧している。コロナ禍の時に3割減少した売上は回復することなく、物価高によりクリーニング離れが進んでいる。資材やエネルギー価格も上がり、少しばかり値上げしても追いつかず、資金繰りは厳しいまま。（普通洗濯業）

- 印刷業界全体の景気が落ち込んでいる。ペーパーレスの風潮で、小冊子等は部数を削減あるいは作成しない傾向があり、印刷も製本加工も大幅に減少している。製本部門では、コスト上昇分の値上げを申し出てもわずかしか実現せず、物価の高騰に追い付けない。今後も状況の改善は大きくは見込めず、製本・印刷物加工の企業は存続の危機にあると感じる。(製本・印刷物加工製造業)
- アクセサリー業界では、地金相場(金、銀、プラチナ)の変動が激しく、取引先と価格調整が追いつかない状況。取引先の小売価格値上げに伴う駆け込み需要があり、1～2月は売上が増加したが、地金価格の上昇のため利益は少ない。(貴金属・宝石製造業)
- 物価高が続く中、市中の景況感が良くないと思う。自動車整備業界の景況感も良いとはいえ、また人材は募集をかけても応募すら少ない状況で、この先に不安を感じることもある。(自動車整備業)

3. 顧客・得意先について

- 紙(伝票等)離れが一番の打撃。(印刷製造業)
- 高齢化により承継者がなく廃業に追い込まれる取引先が年々増えている。(家庭用電気機器卸売業)
- 海外の生産コストが上昇している上、円安で仕入価格が高くなっているが、顧客の購買力がそれに伴っていない。昨年注文を受けていた商品を値上げせざるを得ないが、国内物価上昇や賃金据置きのため内需が落ち込んでおり、客先からの注文減となっている。国内の景気回復がない限り売上を伸ばすことは難しい。(靴・履物卸売業)

4. 為替について

- 円安で海外向けの仕事が増加してきている。(製本・印刷物加工製造業)
- 円安が利益を圧迫している。値上げもできない。賃金上昇で消費マインドが活性化することを強く期待している。(がん具・事務用品製造業)
- 円安傾向が続いているので非常に厳しい状況。(家庭用電気機器卸売業)
- 為替の変動(円安)による仕入単価の上昇があるため今後の見通しが不安定。(家庭用品小売業)

5. 金融・資金繰りについて

- 資金繰りが悪化している。借り換えを依頼している。(医療附带サービス業)
- 地金相場が一向に落ち着かず、仕入れのための資金繰りに苦労している。そうした中で、電子記録債権に切り替わる時点で手形をやめる企業があるのは助かる。(装身具・身の回り品卸売業)
- 前期に比べ売上が下降傾向。資金繰りが厳しい。(遊技場)

6. 売上・収益について

- 売上は良い状況にあるが、仕入価格が突然上昇し、利益幅の変動が大きい。安定した利益を確保し難い状況にある。(かばん・袋物製造業)
- レアアースの入手困難により、生産が停止し売上大幅減少。(窯業・土石製品製造業)
- ここへ来て、やっと受注増加の動きが見え始めた。(窯業・土石製品製造業)
- 学校関係の販売をしており、これから新学期になるので売上も上がってくると思う。(靴・履物小売業)
- 仕入に対して、売値が上げられず、利益が減少している。(自動車・自動車部品卸売業)
- 人材不足、配送費増加、働き方改革、インボイスなど経営負担が多すぎる。(家庭用電気機器卸売業)
- 東京ゼロエミポイントや助成金等の関係で売上は好調。仕入価格の上昇や品薄で困っている。(家電・電気機器小売業)
- キャッシュレス決済が多くなり、入金日までの間の短期の支払いが苦しい日があった。消費者の節約志向のためか、値上げした商品の売れ行きが鈍く、売上増加に結び付いていない。(化粧品小売業)
- 売上の大半を占めるのがインバウンド客なので、インバウンド旅行者の増減は気になる。特に中国からの顧客との相性が良かったので、中国と日本の関係には注目している。(男子服小売業)
- 賃金を上げたい気持ちはあるが、業績が追いついてこない。売上、利益ともに減少傾向。(運輸附带サービス業)

7. 物価変動について

- 材料費（特に銅系）が高くなりすぎて困っている。（その他電気機器卸売業）
- 原料価格の上昇傾向、更に中東情勢が製品の製造に係る光熱費・輸送費に大きく影響するのではないかと懸念している。（化粧品卸売業）
- 自社で取り扱っている国産牛肉もそうだが、豚肉、鶏肉を含め畜産関係は軒並み価格が上昇している。販売先のスーパー、飲食店は全てが値上がりしている状況に八方塞がりな感が出てきている。（食肉卸売業）
- 物価の上昇が止まらず、材料の確保が難しい状況になっている。（がん具・娯楽用品小売業）

8. 消費税等について

- 食品の消費税が暫定的に0%になるとのことで、今後飲食店の売上にどのような影響があるのか不安。飲食店のテイクアウト商品も同様に税率が0%になるのか。また、レジやメニューの変更に膨大な手間がかかることも大きな課題。（一般飲食店）

9. 人材の確保・育成について

- 社員の高齢化が進んでいる。若い人材を得るのは大変。（男子服小売業）
- 若い人材の確保が難しい。なり手がいない。高齢化が進んでいる。仕事はあるがこなしきれない状況。（家具・インテリア小売業）
- 最低賃金の引き上げは、売上に応じて人件費を管理する飲食店では労働時間の削減や正社員への負担増につながり、生産性向上に結びつきにくい。（酒場・ビアホール）
- 賃上げの時期だが5%や6%の賃上げは難しい。取引単価を上げることができたとしても、仕事量自体を増やさない限り経営は安定しない。人手不足は仕事量拡大の足かせとなっている。（発電・送電・配電用機器製造業）
- 高齢社員が増えていく中で、引継ぎ等含め若い人材を求めているが、なかなか確保出来ない状態が続いている。（計量・測定・分析器製造業）
- 技術者の高齢化による後継者人材の採用を進めているが、なかなか思うように採用が進まない。どの業界も人材不足だと思うが、特に産業分野の技術者については不足感がある。（理化学・光学機器製造業）